

自主調査研究報告 [継続報告]

| | | |
|---------------------------------|-----|-------|
| 北海道の農水産品の輸出促進に向けた調査研究 (継1A-1-⑤) | 大分類 | 継1A |
| | 中分類 | 継1A-1 |

1. 目 的

政府では、農林水産物・食品の輸出額を2020年までに1兆円とする方針を打ち出しており、北海道においても道産食品の輸出1,000億円を目標とした戦略が立てられている。また、国土交通省では、平成29年6月に農水産物の輸出促進に向けた事業制度が創設され、屋根付き岸壁や冷凍・冷蔵コンテナの電源供給等の整備に関する支援が行われることとなり、全国で初めて、北海道6港湾が認定された。財務省の財政制度等審議会財政制度分科会(平成29年10月17日開催)においては社会資本整備における成長戦略に基づくインフラの重点整備の例として紹介されるなど、北海道の動向が注目されている。

一方、当センターにおいては、「寒冷地における衛生管理型構造物の手引きの作成; H29~H31」において、ハード面の研究を開始している。また、「水産物陸上保管施設と高鮮度な船舶輸送に関する調査研究; H27~H29」において、陸上保管施設の有効性を把握しており、この知見を、上記輸出促進計画と連携させるなど、ソフト面の研究も重要であり喫緊の課題である。

特に、ソフト面では、農水産物輸出促進のためには、港湾管理者が地元連携団体と共同で体制を整え、輸出対象農水産品や目標を定める必要がある。また、最も効果のある農水産品の特定や農業との連携、道内物流体系から見た拠点港の適正配置など、計画の充実や着実な実施が重要である。

以上を踏まえ、本研究では、早期に港湾管理者の計画等に資するための情報の整理を行うものである。

2. 実施内容

2.1 紋別港の屋根付岸壁に係る情報収集

紋別港の屋根付岸壁が整備中であることから、水産品の輸出促進に向けた基礎情報を収集するため、輸出の現状、加工施設の概要、衛生管理の状況等について把握する。

2.2 苫小牧港の屋根付岸壁整備効果の把握

苫小牧港における屋根付岸壁整備事業の概要を整理し、整備前後の効果を把握する。

3. 主要な結論

3.1 紋別港の屋根付岸壁に係る情報収集

紋別港で整備中の屋根付き岸壁について、関係者(漁業協同組合、水産加工会社)へのヒアリング調査を行い、ホタテの輸出状況や衛生管理(HACCP)等について把握した。

3.2 苫小牧港の屋根付岸壁整備効果の把握

先行事例である苫小牧港の屋根付き岸壁における整備効果を取りまとめ、下記学会での発表を行った。

- ・松尾優子, 片石温美, 伊藤孝信, 多田英彦, 田中淳: 施設整備による経営効率化・軽労化 — 苫小牧港漁港区屋根付岸壁の例 —, 2019年5月, 日本水産工学会学術講演会

4. 今後の対応

屋根付き岸壁の整備に伴う北海道産水産物の輸出可能性を検討するため、これまであまり検討されていない米国輸出を対象に、現状での動向や輸出に向けた課題を整理する予定である。

なお、本研究は実施期間を令和2年度以降2か年延長する計画とする。